

人口動態の指標に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 出生率（粗出生率）は、1年間の出生数をその年の10月1日の総人口で割ったもので、人口10万対で表されるのが一般的である。
2. 合計特殊出生率は、15～49歳の女性の年齢別出生率の総和で、1人の女性が一生の間に生む子どもの数を表す指標として用いられる。
3. 総再生産率は、1人の女性が、出産時の年齢にかかわらず一生の間に生む子どもの数で、合計特殊出生率よりも大きな値となる。
4. 純再生産率は、人口が翌年に増加するか減少するかが分かる指標である。純再生産率が、ある年に1未満になると、その翌年に人口が減少する。
5. 新生児死亡率は、1年間の出生数に対する、生後1週未満の死亡数の割合であり、乳児死亡率よりも小さな値となる。

〔正答番号〕 1 3 4 5

COPD に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. COPD は慢性気管支炎や気管支喘息、肺気腫の総称で、有害物質を長期に吸入曝露することで生じた肺の炎症性疾患である。
2. COPD の特徴的な症状は、歩行時や階段昇降時に息切れを感じる労作時呼吸困難や慢性の咳や痰である。
3. 肺胞が破壊されて、肺気腫という状態になると、肺が膨らもうとする力が減少して、息を吐くのは容易だが息を吸うことが困難になり、酸素の取り込み機能が低下する。
4. 肺機能検査（スパイロメトリー）で、「1秒率」が50%あれば、COPD の可能性は低い。
5. 喫煙者における COPD の発症率はおよそ50%である。COPD 患者が禁煙すると、「1秒量」が改善する。

〔正答番号〕 1 3 4 5

因果関係に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 仮定された発症要因と、ある疾病に因果関係があると断定するための十分条件は、仮定された発症要因とその疾病の間に観察研究によって関連が認められることである。
2. 因果関係があると判断するためには、要因曝露が罹患より時間的に前であることが必要条件である。これは関連の整合性と呼ばれる。
3. 食塩摂取量が多いほど胃がんの罹患率が高いことが分かれば、食塩摂取と胃がんの因果関係を強く示唆することになる。これは関連の普遍性と呼ばれる。
4. ウイルスXに感染しなければ疾病Aに罹患せず、ウイルスXに感染すれば免疫がない者は全員疾病Aを発症することが分かれば、ウイルスXと疾病Aとの因果関係を強く示唆することになる。これは関連の特異性と呼ばれる。
5. 交絡因子は、発症要因には強く影響するが疾病には全く影響を与えない因子であり、交絡因子があると発症要因と疾病との間に因果関係があるように見える。

〔正答番号〕 1 2 3 5

健康日本21（第三次）で設定された具体的目標に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 健康寿命については、男性は70歳、女性は73歳を目標値としている。
2. 適正体重を維持している者の増加（肥満、若年女性のやせ、低栄養傾向の高齢者の減少）については、BMI18.5以上25未満（65歳以上はBMI20を超え25未満）の者の割合50%を目標値としている。
3. 骨粗鬆症検診受診率の向上については、75%を目標値としている。
4. 睡眠時間が十分に確保できている者の増加については、睡眠時間が6～9時間（60歳以上については、6～8時間）の者の割合30%を目標値としている。
5. 野菜摂取量の増加については、1日当たりの野菜摂取量の平均値350gを目標値としている。

〔正答番号〕 1 2 3 4

国民健康づくり対策に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 2000年に定められた健康日本21は、我が国における初めての国民健康づくり対策である。
2. 健康日本21（第二次）は、健康増進に関連するデータの見える化・活用やPDCAサイクルの推進が十分に行われたと評価されている。
3. 健康日本21（第二次）の最終評価において、「メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の減少」の項目は、「現時点で目標値に達していないが、改善傾向にある」とされている。
4. 健康日本21（第三次）の計画期間は、各種取組の健康増進への効果を短期間で測ることは難しく、評価を行うには一定の期間を要すること等を踏まえ、2024年度から2033年度までの10年間とされている。
5. 健康日本21（第三次）は、「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」をビジョンとし、多様化する社会において、集団に加え個人の特性をより重視しつつ最適な支援・アプローチを実施するとしている。

〔正答番号〕 1 2 3 4

感染症法第6条は感染症の分類について規定している。これに関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 一類感染症は、感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点から見た危険性が極めて高い感染症で、後天性免疫不全症候群、エボラ出血熱、急性灰白髄炎がその例である。
2. 二類感染症は、一般に国民が免疫を獲得していないことから、全国的かつ急速な流行により国民の生命及び健康に重大な影響を与えると考えられる感染症で、新型インフルエンザがその例である。
3. 三類感染症は、感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点から見た危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こし得る感染症で、コレラ、腸チフスがその例である。
4. 四類感染症は、生きている動物を介してヒトに感染する感染症と定義されており、狂犬病、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。）がその例である。
5. 五類感染症は、感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点から見た危険性が低い感染症であり、A型肝炎、E型肝炎、RSウイルス感染症がその例である。

〔正答番号〕 1 2 4 5